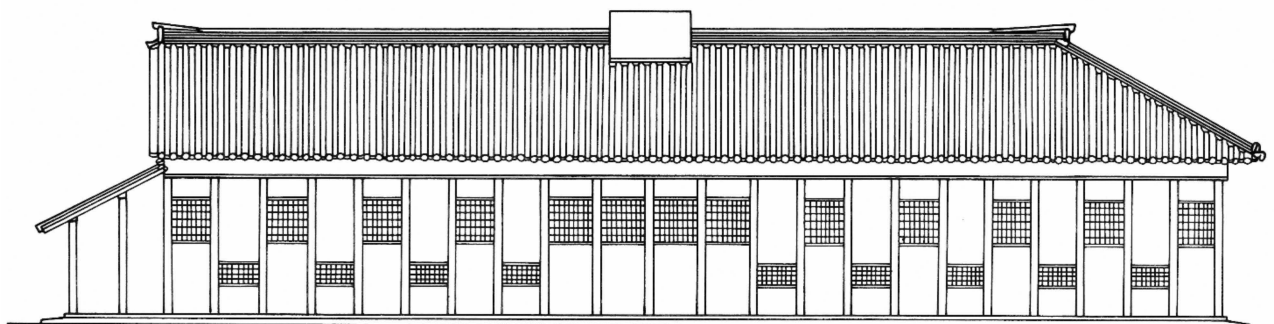


枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館

年 報

令和4年度

2 0 2 2



目次

1. 施設と組織・体制

(1) 施設の概要	1
(2) 展示施設	2
(3) 管理棟（体験工房）	3
(4) 組織・体制	3

2. 事業報告

(1) 展示	4
(2) 普及事業	9

3. 文化財等の調査・収集

(1) 民俗文化財収集整備業務	13
(2) 民俗文化財の保全	15

4. 体験工房

(1) 主催事業	16
(2) 施設利用	19

5. 施設利用・管理

(1) 資料館利用	20
(2) 資料館管理	20

6. 研究報告

(1) 枚方市東部の門松	22
(2) 資料紹介 長谷川家文書「注文諸控」について	27

1. 施設と組織・体制

(1) 施設の概要

枚方上之町に所在した田中家は古くから鋳物業に携わり、江戸時代には、全国の鋳物師の大多数を統括していた真継家から独占的営業権を許され、河内国惣官鋳物師として河内の鋳物師を統率して、梵鐘、鍋、釜などを鋳造していました。

枚方市は、同家からその鋳物工場と住居の寄付を受け、昭和 49 年から昭和 57 年にかけて現在地に移築復元し、これを機に、田中家の鋳造業の歴史的な位置づけを目的として、鋳造に関する資料を収集し、地域の民俗文化財を合わせて、枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館として整備し、昭和 59 年 10 月に開館しました。

平成 20 年には展示パネルの改修や、鋳造をはじめ工芸や美術の創作活動が体験できる体験工場の整備を実施。平成 28 年 10 月から実施した耐震・改修工事にあわせて鋳物の歴史を伝える展示コーナーをリニューアルし、平成 29 年 10 月に再オープンしました。

歴史的・民俗的視点を切口に鋳造技術を紹介する施設は全国的に見て貴重であり、枚方市民や近隣の人々をはじめ、研究者、鋳造業者など全国から多くの見学者を集め、開館からの入場者数は、343,184 人(令和 5 年 3 月末)となりました。

【資料館のあゆみ】

昭和 48 年 3 月 30 日	田中家住宅鋳物工場が大阪府有形文化財に指定される
昭和 48 年 4 月 7 日	枚方上之町田中宇之松氏から鋳物工場の寄贈を受ける
昭和 49 年から 52 年 3 月	鋳物工場を藤阪天神町に移築・復元する
昭和 50 年 8 月 9 日	枚方上之町田中宇之松氏から主屋の寄贈を受ける
昭和 50 年 8 月 27 日	田中家住宅主屋が大阪府有形文化財に指定される
昭和 54 年から 57 年 3 月	主屋を藤阪天神町に移築・復元する
昭和 59 年 10 月	枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館開館。1 月から 3 月は休館。
平成 7 年 4 月	通年開館を実施。
平成 18 年 4 月から 21 年 3 月	指定管理者制度を導入。公募による指定管理者選定を実施(指定管理者：(財)枚方市文化財研究調査会)
平成 20 年 7 月	体験工房開設及び工場展示パネルリニューアル
平成 21 年 4 月から 26 年 3 月	公募による指定管理者選定を実施(指定管理者：(財)枚方市文化財研究調査会)
平成 26 年 4 月	耐震工事に向けて管理運営を直営で実施
平成 28 年 3 月	入館者数 30 万人を達成
平成 28 年 10 月から 29 年 10 月	耐震・改修工事のため展示施設部分は休館し、体験工房のみ開館する。耐震工事にあわせて工場常設展示を大幅リニューアル、復元竪穴式住居の屋根葺替を実施。
平成 29 年 10 月 3 日	リニューアルオープン

(2) 展示施設

枚方市内で近世以前から鋳物業を営んできた、田中家から寄贈された鋳物工場・主屋を枚方市が移築復原し、昭和 59 年から展示施設として公開・活用しています。

・田中家住宅主屋（大阪府指定有形文化財）

田中家の主屋は、桁行 8 間・梁行 4 間半、屋根は切妻造本瓦葺きの建物で正面に庇を設けています。元文 4 年（1739）に釣鐘を鋳造した時の祈祷札が打たれていたことから、建築年次の下限がわかりますが、建物の形式手法からみて、17 世紀までさかのぼれるものではありません。

建設当初の平面は、整形四間取りでした。土間は表側の部分が仕切られ、「うまや」として使われていたようです。釜屋はそのうしろにあり、煙返しのために梁を低くし、内部の天井は土で塗り込めています。

構造は梁の上に根太天井を渡し、「厨子二階」をつくり、中央棟下の柱間に地棟を渡し、登梁を使用して小屋を組んでいます。平面は全体に農家のものに類似していますが、このような瓦葺きの構法を取ったのは、鋳物師という火を使う職業であったためではないかと思われます。

同家の主屋は、伝統のある鋳物師の住居であるという点、および河内の民家としても、交野市の山添家住宅（重要文化財）に続く時期の特徴を良く残しています。

・田中家住宅鋳物工場（大阪府指定有形文化財）

鋳物工場は、桁行 12 間・梁行 5 間半、屋根は寄棟造本瓦葺きで建築年次は不明ですが、主屋とあまりへだたりのない時期の建築であると思われます。周囲は半間おきに柱がたち、高さを変えて格子窓がつかます。

正面にあたる東側では、南半が格子窓、北半は下地窓を連子風にしています。このように窓が多いのは鋳込み作業の時、室内がかなり高温になるためではないかと思われます。

内部は西側 4 間を身舎にとり、入側は 1 間おきに独立柱がたちます。工場のほぼ中央部にあたる 5・6 間目は柱間がのび（1 間 1.97m に対して 2.2m）、棟下には炉が置かれ、その上の方 1 間の風袋が壁土で塗り込められ、換気の役を果たしていました。炉の背面の 1.5 間×2 間は「たたら場」で二方を厚い土壁でふさぎ、ふいごを置いて溶解を行いました。両側の作業場は土間で砂を敷き、その上に鋳型を置いて鋳込みを行っていました。

以上のように、田中家鋳物工場は、近世の鋳物工場としては全国に例をみない珍しい建築遺構です。

・復元竪穴住居

田口山遺跡で発掘された弥生時代中期の竪穴住居跡をモデルに復元したものです。直径 8 m50 cm の平面円形の住居で、高さ約 5 m の茅葺屋根です。屋根は平成 29 年 11 月に葺替えています。

・弥生時代の竪穴住居跡

長尾西遺跡で発掘された弥生時代後期の実物の住居跡。方形住居跡の約半分をとどめるだけですが、炭化材が残っていたため、地面から切り取って移設・保存しています。

(3) 管理棟（体験工房）

当館は鋳物の歴史資料館であることから、平成 20 年度に管理棟内に、ものづくりの体験ができる体験工房を開設し、鋳造、七宝、彫金等の主催講座を開催しているほか、講座参加者を中心に結成したサークルが体験工房を利用して、美術・工芸などの創作活動を行っています。

【施設概要】

名称	枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館
所在地	枚方市藤阪天神町 5 番 1 号 (JR 学研都市線藤阪駅徒歩 7 分、京阪バス藤阪徒歩 5 分)
施設内容	<p>① 開館 昭和 59 年 10 月 3 日</p> <p>② 敷地面積 8,114.67 m²</p> <p>③ 建築面積 791.26 m²</p> <p>④ 延床面積 1,174.01 m²</p> <p>⑤ 建築構造・主な施設内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鋳物工場(木造平屋) 展示室 ・主屋(木造平屋) 陳列棟 部屋 4 室、土間等 ・管理棟(鉄骨 2 階) 1 階 収蔵庫、体験工房等 2 階 事務室、収蔵庫、研究室等 ・復元竪穴住居

【配置図】



(4) 組織・体制

当館は枚方市観光にぎわい部文化財課所管施設として運営し、館長・係長が文化財課と兼務、学芸員以下が資料館の日常的な管理・運営を行っている。

【体制】

観光にぎわい部長	一次長	文化財課長	課長代理兼館長	係長	学芸員(常勤)	1名
					学芸員(週4日)	1名
					歴史資料整理員(延36日)	1名
					資料館等業務補助員	

2. 事業報告

(1) 展示

①常設展

ア. 工場

枚方の鋳物師田中家旧蔵の鋳造道具や田中家の歴史、現代の枚方で製造されている鋳物製品を展示。

メンテナンスは、以下のとおり実施。

- ・映像コーナー
スイッチベースが破損したため修理した。
- ・たたら人形
4体のうち1体の足部を踏鞴に固定する部品のゆるみを修理した。

イ. 主屋

枚方市域の民俗文化財を展示。露出展示のため、比較的傷みや劣化に耐える民俗資料で、「枚方のむかしの生活」として展示。小学校の地域学習や歴史学習などに活用されることが多く、子ども向けのワークシートを作成し、見学の便を図った。

メンテナンスは、以下のとおり実施。

- ・破損した襖の貼り替えをした。

②企画展

木のいれもの～おけとたる

展示期間：令和4年4月23日～令和4年7月10日

土間トーク 5月5日、6月18日

学芸員こぼれ話 7月3日

内 容：さまざまな桶や樽を展示し、作り方やこれらを使ったくらしを紹介。

展示資料：酒樽、釣瓶桶、水掛担桶、油桶、たらい、洗濯板、風呂桶、井戸用滑車、角樽、漬物樽、おまる、屋根土用運搬桶、手桶、手水盥、片手桶、味噌桶、湯桶、桶製作道具



展示風景



くらしの中の〇△□

展示期間：令和4年7月16日～令和4年10月10日

土間トーク 7月30日、10月2日

学芸員こぼれ話 9月11日

内 容：円形、三角形、四角形、多角形の民具を展示し、民具の用途とその形状である理由を紹介した。

展示資料：箱蒸籠、曲物蒸籠、豆腐籠、羽釜、ブリキ製担箱、唐箕たろみ、苗籠、田植杵、千歯扱き、改良式置きこたつ、蓄音機、傘、長火鉢、丸火鉢、柱時計、ひのし、こて、長着、糸車、ちゃぶ台



展示風景



いれもの

展示期間：令和4年10月22日～令和5年1月9日

土間トーク 10月29日、12月4日

学芸員こぼれ話 11月6日

内 容：くらしの中のさまざまな場面で行われた「いれもの」を展示した。

展示資料：枡、斗桶、組重、弁当箱、汽車土瓶、通い徳利、ふご、漬物樽、行李、トランク、掛硯、櫛箱、米櫃、針箱、書箱、木箱、箆筒、膳入箱



展示風景



祭りのおもかげ

展示期間：令和5年1月21日～令和5年4月9日

土間トーク 1月28日、4月1日

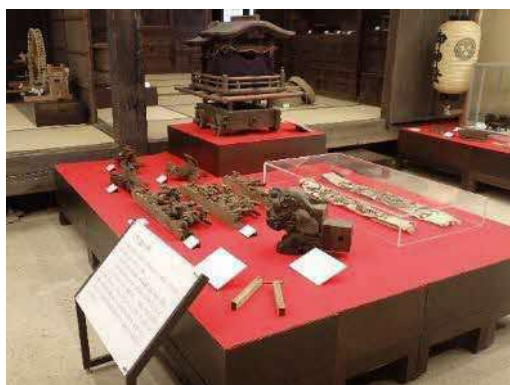
学芸員こぼれ話 3月18日

内 容：祭りに用いられた布団太鼓の部材や提灯、祭りの日の食事の道具などを、往時の祭りの写真とともに展示した。

展示資料：布団太鼓部材（唐獅子・虎・龍・神功皇后・天岩戸・鬼女退治）、布団締め、龍形部材、拍子木、子供用だんじり、箆箆、龍笛、譜本、伏見人形、ひな人形、ひな道具（長持・蝶足膳）、菓子型・鮭型、高張提灯、祭礼等写真パネル



展示風景



③庭園「河内木綿栽培展示」

資料館で常設展示している機・実繰・紡車と関連づけた説明ができるように、「昔の暮らし」学習に有用な綿を初夏から秋にかけて栽培。

④館外展示

枚方宿まちかど歴史展示

展示期間：令和4年12月1日～令和4年12月18日

枚方宿の複数の店舗で文化財の展示を行い、歴史や文化をより広く知ってもらうとともに、人の流れを創出し地域の活性化を図り、また、枚方宿の歴史についての理解を深めていく目的で、枚方宿まちづくり協議会、枚方文化観光協会（鍵屋資料館）、枚方市（文化財課）の3者共催の展示を行い、枚方宿の店舗所蔵の民具5点を展示解説した。

展示風景



阪伏出船時間表
くらわんかギャラリー



麦茶用水筒
塩熊商店



氷鋸
枚方凍氷



看板
北村みそ本家



大小看板
北村みそ本家

⑤アンケートの実施

入館者にアンケート調査（任意記入）を実施し、総数 88 枚の回答を得た。職員の対応は「よかった」が 84%、展示の内容はいずれも「わかりやすい」が 85%以上を占めた。

令和4年度(4年4月～5年3月)アンケート集計

総回答数 88 枚（重複・未回答あり）

1.年齢

	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
人数	26	6	3	5	18	23	11	1	93
率	28.0%	6.5%	3.2%	5.4%	19.4%	24.7%	11.8%	1.1%	100.0%

3.お住まい

	枚方市内	大阪府内	大阪府外	合計
人数	41	29	16	86
率	47.7%	33.7%	18.6%	100.0%

4.誰と一緒に来られましたか

	家族	友人	団体見学	ひとり	その他	合計
人数	22	26	20	33	1	102
率	21.6%	25.5%	19.6%	32.4%	1.0%	100.0%

5.資料館を何で知られましたか

	広報『ひらかた』	ホームページ	人からきいて	通りがかり	ポスター	チラシ	その他	合計
人数	6	13	22	20	0	7	21	89
率	6.7%	14.6%	24.7%	22.5%	0.0%	7.9%	23.6%	100.0%

6.こちらまでの交通手段は何でしたか

	電車	バス	タクシー	自転車	バイク	自家用車	徒歩	合計
人数	25	4	0	18	2	21	20	90
率	27.8%	4.4%	0.0%	20.0%	2.2%	23.3%	22.2%	100.0%

7.職員の対応は適切でしたか

	よかった	ふつう	よくない	合計
人数	69	13	0	82
率	84.1%	15.9%	0.0%	100.0%

8-1.展示内容はいかがでしたか(工場)

	わかりやすい	ふつう	わかりにくい	合計
人数	77	9	0	86
率	89.5%	10.5%	0.0%	100.0%

8-2.展示内容はいかがでしたか(主屋)

	わかりやすい	ふつう	わかりにくい	合計
人数	74	10	0	84
(%)	88.1%	11.9%	0.0%	100.0%

(2) 普及事業

①寺子屋講座

館内事業として、寺子屋講座と題した各種催しや企画展関連行事などを実施。

講座一覧

講座名	開催日	参加者数 (付添含む)
枚方鋳物師田中家の古文書を読む	5月20日・27日、6月3日・10日	12人
布ぞうり講習会	6月29日	12人
怪奇?! オバケちょうちんづくり	8月5日～7日	126人
枚方鋳物師田中家の古文書を読む	9月16日・30日、10月7日・14日	12人
竹かご講習会	11月25日	11人
わらに親しむ～しめ縄づくり～	12月25日	12人
かまどで焼きいも!	1月14日	39人
わらに親しむ～鍋しきづくり～	2月24日	6人
ビデオ上映会	3月18日	10人
合計	開催日数 17日	240人

実施風景



6月29日
布ぞうり講習会



8月5日
怪奇?! オバケちょうちんづくり



10月14日
枚方鋳物師田中家の古文書を読む



11月25日
竹かご講習会



12月25日
わらに親しむ～しめ縄づくり～



1月14日
かまどで焼きいも!



2月24日
わらに親しむ～鍋しきづくり～

②見学・取材等対応

ア 小学校への対応

(体験学習)

伝統的な稲の脱穀の体験を通して、日本文化の根底となる稲作並びにワラという素材を学ぶ機会とした。

稲扱き体験は、千歯扱きを用いて児童が行い、教員による足踏脱穀機の実演を見学した。粃とワラクズなどのゴミを選別するための風選は、箕と唐箕を用いた職員の実演を見学した。また、脱穀したワラを用いた縄織り体験も実施した。

脱穀体験

実施日	学校名	学年	人数（引率者数）
11月 18日	藤阪小学校	5年生	84 人（ 3 人）
合計	学校数1校		参加者数87人

(出前講座)

出前授業は地域学習や総合的学習（小学3年生）、歴史学習（小学6年生・中学校1年生）などの学校教育との連携を図るとともに、資料館PRの一環として企画。以下のプログラムを用意し、教員の希望に応じて実施する形態で、今年度は下記小学校で開催した。

(a) 「綿から布へ」 綿の実から糸を紡ぎ小さな布を織る。

- ・綿の話と糸紡ぎ〔45分〕（綿栽培などについての話と綿から糸を紡ぐ作業の体験）
- ・簡単はたおり体験〔45分～90分〕（厚紙で作ったハタで、しおりかコースターを織る）

(b) 「古いもの調べ」 民具を使って、枚方の昔の暮らしを説明する。

- ・『わたしたちのまち枚方』『昔の暮らし』の解説
- ・釜・飯ぶご・箱膳・洗濯板などふるい道具を持参

(c) 「糸車実演」 小学1年生の国語教科書「たぬきの糸車」にも登場する糸車（紡車）の実演と、材料の木綿から手で糸を紡ぐ体験

(d) 「枚方の鋳物づくりと昔の暮らし」

- ・鋳物に関する模型や、釣鐘の実物大写真などを用いて、昔の鋳物づくりについて解説。

出前授業

日時	学校名	学年	クラス	児童数	講座内容
6月2日 5～6限	枚方第二小学校	3年生	1～3組	80人	綿から糸へ、しおりづくり
9月29日 2～4限	山之上小学校	3年生	1～3組	105人	枚方の鋳物づくりと昔の暮らし
10月6日 3～6限	香里小学校	3年生	1～4組	108人	枚方の鋳物づくりと昔の暮らし
11月1日 2～4限	船橋小学校	3年生	1～3組	79人	枚方の鋳物づくりと昔の暮らし
4日 5～6限	殿山第二小学校	3年生	1～3組	71人	綿から糸へ、しおりづくり
1月24日 4限	中宮小学校	3年生	1～3組	83人	古いもの調べ
26日 2～4限	蹉跎西小学校	3年生	1～3組	72人	枚方の鋳物づくりと昔の暮らし
27日 6限	香陽小学校	3年生	1～2組	51人	古いもの調べ
28日 3限	樟葉西小学校	3年生	1～2組	71人	古いもの調べ
28日 5～6限	樟葉小学校	3年生	1～4組	129人	古いもの調べ
2月1日 2限	田口山小学校	3年生	1～2組	72人	古いもの調べ
3日 3限	桜丘北小学校	3年生	1～2組	41人	古いもの調べ
10日 3～4限	牧野小学校	3年生	1～4組	112人	古いもの調べ
合計	学校数 13校			受講者数 1074人	

(社会見学)

小学校3年生の社会科単元「枚方市のようす」、「昔の暮らし」の導入で、社会見学に資料館がよく活用される。理解することが難しくなった昔の生活を実感し、興味を抱くよう学芸員が展示説明を行い、書込式のワークシート「けんがくノート」も配布。

社会見学

実施日	学校名	学年	人数 (引率者数)
5月 20日	枚方第二小学校	3年生	78人 (6)
24日	香陽小学校	3年生	50人 (5)
6月 2日	蹉跎西小学校	4年生	71人 (6)
7日	桜丘北小学校	3年生	40人 (4)
9月 22日	五常小学校	3年生	68人 (5)
28日	蹉跎東小学校	3年生	64人 (5)
30日	山之上小学校	3年生	105人 (7)
10月 4日	開成小学校	3年生	90人 (7)
13日	香里小学校	3年生	108人 (7)
20日	小倉小学校	3年生	64人 (7)
11月 8日	津田南小学校	3年生	133人 (8)
10日	船橋小学校	3年生	77人 (6)
11日	磯島小学校	3年生	62人 (7)

11日	樟葉北小学校 3年生	43人 (5)
17日	交北小学校 3年生	60人 (6)
22日	楠葉南小学校 3年生	71人 (6)
22日	東香里小学校 3年生	42人 (5)
24日	山田小学校 3年生	24人 (3)
12月 14日	明倫小学校 3年生	38人 (5)
2月 2日	藤阪小学校 3年生	73人 (4)
合計	学校数 21校	参加者数 1,475人

下見対応 19校

イ 博物館実習

8月17日～22日旧田中家鋳物民俗資料館及び鍵屋資料館で5人を受け入れた。
参加者は、京都教育大学・京都外国語大学・大阪芸術大学（各1人）・龍谷大学（2人）。
うち、当館では8月17日～19日の3日間を担当。

- 17日 オリエンテーション、展示解説、収蔵庫見学
- 18日 広報物発送作業補助
収蔵品の箱移し替え作業
- 19日 二酸化炭素による殺虫作業

ウ 取材

①読売新聞

令和4年4月23日に取材、6月7日に掲載された。

②NHK Eテレ「みいつけた！」

令和4年9月26・27日に当館で撮影、12月26・27日に放送された。

③NHK Eテレ「漢字ふむふむ」

令和5年1月5日に当館で撮影、1月31日に放送された。

エ その他

①関西考古学の日

令和4年9月1日～11月30日に実施された関西考古学の日に参加した。

②関西文化の日、関西文化の日プラス

令和4年11月1日～30日に実施された関西文化の日に参加した。

③国立民族学博物館国際シンポジウム「地域文化と博物館」

令和4年12月16日、当館の取り組みを報告。

3. 文化財等の調査・収集

(1) 民俗文化財収集整備業務

①民俗文化財の収集・調査・整備

民俗文化財の収集活動については、資料の状態やその学術的価値、収蔵庫の状況によって判断するため、調査の上で寄贈依頼に対応している。調査では、有形資料の現況確認の他、使用や製作技術といった無形民俗の聞きとりを行っている。

有形民俗文化財収集一覧

実施日	寄贈者	点数	資料
6月9日	南楠葉（個人）	1点	油桶
6月16日	中宮西之町（個人）	3点	衣装箱、竹籠、飯櫃
12月8日	宗谷（個人）	1点	手ぬぐい
1月5日	招提元町（個人）	150点	桶製造道具一式
2月16日	甲斐田町（個人）	12点	笠、ランプ、吊灯籠、皿秤、井戸用具、爛銅壺
3月22日	宮之阪（個人）	2点	猪口、素麺箱



油桶



竹籠



爛銅壺



手ぬぐい



素麺箱

桶製造道具



正直型



銚



南京鉋

民俗文化財調査一覧

実施日	調査地	資料
4月30日	藤阪元町	唐箕（寄贈の打診があり調査）
6月9日	中宮西之町	衣装箱、竹籠、飯櫃等（寄贈の打診があり調査）
7月29日	殿山第二小学校	歴史資料室に収蔵されている民具の概要調査
10月26日	宗谷	手ぬぐい（寄贈の打診があり調査）
11月9日	資料館	鉋、飯盒（寄贈の打診があり調査）
11月24日	楠葉朝日	槍、鳶、錫杖（寄贈の打診があり調査）
12月23日	尊延寺	鋸（寄贈の打診があり調査）
1月12日	甲斐田町	笠、ランプ、爛銅壺等（寄贈の打診があり調査）

②資料調査

菊人形資料調査

枚方市民菊人形の会が所蔵している故武河重仁氏旧蔵の下絵や参考資料などを継続して調査。

田中家所蔵古文書の調査

枚方鋳物師であった田中家文書の細目録作成を実施。

③民俗調査等

神社の祭礼行事のアンケートの実施

民俗文化財調査の一環として、これまで未調査である枚方市内に所在する神社の祭礼行事調査を実施、神輿、だんじり、布団太鼓等の確認調査を行った。

その他

実施日	調査地	概要
5月31日	交野市私部	交野節調査（大阪府に同行）※
7月7日	交野市私市	交野節調査（大阪府に同行）※
10月4日	大垣内	交野節調査（大阪府に同行）※
10月18・19日	津田	春日神社祭礼調査
10月21日	交野市私部	交野節調査※
11月22日	津田	春日神社宮座調査
12月8日	津田東町	交野節調査
12月24日	田口	かんじょう縄調査
12月24日	岡東町	交野節調査※
2月2日	藤阪元町	郷土料理調査
2月8日	釈尊寺	だんじり調査
2月16日	津田	春日神社宮座調査
3月9日	大峰元町	郷土料理調査

※令和5年3月13日付で枚方市・交野市に所在する「交野節」が大阪府の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択された（令和3・4年度に大阪府と調査を実施）。

(2) 民俗文化財の保全

クリーニング

	資料名	受入番号	資料名	受入番号	資料名	受入番号
4月	レンガ用型枠	—	鋳型	C-4-077	生型用原型	C-2-088
	生型用原型	C-2-103	文字埋型	C-3-104	文字埋型	C-3-107
	埋型（聖観音）	C-3-039	埋型（獣脚）	C-3-119	田植枠	0-3087
	茶篩	0-0048	千石通し	0-1415	版木	2-0063
	版木	2-0064	版木	2-0065	単長襦袢	0-1907
	鯨型	0-3490	鯨型	0-3491	よもぎ餅の押型	0-3492
	よもぎ餅の押型	0-3493	よもぎ餅の押型	0-3494		
9月	たらい	0-1854	洗濯板	0-0087	味噌桶	0-1262
	醤油樽	0-1264	五右衛門風呂	0-1096	湯桶	0-1685
	釣瓶	0-1051	水掛け担桶	0-1925	角樽	0-0428
	足付湯桶	0-3244	井戸用滑車	0-2983	小児用桶製便器	0-3385
	屋根土運搬用桶	0-3414	漬物樽	0-3463	手桶	1-0053
	片手桶	1-0055				
10月	番傘	0-1696	ひのし	0-0335	蓋付羽釜	0-1303
	曲物蒸籠	0-1301	ちゃぶ台	0-1318	長火鉢	0-0448
	丸火鉢	0-0564	タロミ	0-1235	豆腐籠	0-0383
	柱時計	0-1994	方形蒸籠	0-2863	田植枠	0-3087
	千歯扱	0-3117	苗籠	0-2491	ブリキ製担箱	0-3327
	改良式置こたつ	0-3383	唐箕	0-3188	単長着	1-1218
	蓄音機	2-0419				
1月	斗桶	0-1576	斗桶・斗かき	2-0099	枡	0-1002
	枡	0-1003	枡	1-0114	枡	1-0115
	弁当箱	0-2732	汽車土瓶	0-2740	通い徳利	0-1276
	素麺箱	0-3518	漬物樽	0-3463	トランク	0-2619
	行李	0-1724	米櫃	0-1031	掛硯	0-2694
	針箱	0-2664	櫛箱	1-0685	書箱	1-1327
3月	木箱	1-1331	箱入蝶足膳	2-0430		
	布団太鼓台部材	1-1781				

4. 体験工房

(1) 主催事業

①体験工房講座

種別	講座名	開催日	対象	参加者数
鑄造講座	錫のぐい呑みづくり	6月11日	一般	6人
	ピカピカ！金属のメダルづくり	7月27日	小学生	12人
	青銅の表札とランプシェード	8月27日～ 10月1日	一般	13人
	青銅の表札とランプシェード	11月12日～ 12月24日	一般	10人
七宝講座	アクセサリづくり	6月24日	一般	15人
	夏休み！わくわく七宝体験	7月22日	小学生	16人
	6cm×8cmの銅板からつくるオリジナル作品	9月14日	一般	13人
	銀箔で遊ぶ	11月17日	一般	15人
	えとの正月飾り	12月15日	一般	14人
	縁起物の壁掛け	1月19日	一般	16人
	干支額	2月16日	一般	16人
	春を待つ桜	3月16日	一般	16人
彫金講座	シルバーリング作り	5月21日	一般	12人
	学んでみませんか 伝統の技	6月18日～ 7月16日	一般	10人
	シルバーリング作り	10月29日	一般	12人
	日本の伝統技術を学ぶ	1月28日～ 2月25日	一般	10人
バーナーワーク講座	きらきらガラスのトンボ玉づくり (午前・午後)	6月23日	一般	午前 10人 午後 10人
	きらきらガラスのかわいいものづくり (午前・午後)	10月19日～ 11月30日	一般	午前 5人 午後 5人
	きらきらガラスのかわいいものづくり	2月8日～ 22日	一般	10人
	きらきらガラスのかわいいものづくり	3月15日～ 29日	一般	10人
スタンドグラス講座	窓辺を彩るウィンドウパネルづくり	10月25日～ 11月22日	一般	10人

実施風景

【鑄造講座】



6月11日
錫のぐい呑み作り



7月27日
ピカピカ！金属のメダルづくり



9月10日
青銅の表札とランプシェード



12月17日
青銅の表札とランプシェード

【七宝講座】



6月24日
アクセサリーづくり



7月22日
夏休み！わくわく七宝体験



9月14日
銅板からつくるオリジナル作品



11月17日
銀箔で遊ぶ



12月15日
えとの正月飾り



1月18日
縁起物の壁掛け



2月16日
千支額



3月16日
春を待つ桜

【彫金講座】



5月21日
シルバーリング作り



7月16日
学んでみませんか 伝統の技



10月29日
シルバーリング作り



6月24日
日本の伝統技術を学ぶ

【バーナーワーク講座】



6月23日
きらきらガラスのとんぼ玉作り



11月30日
きらきらガラスのかわいいもの作り



3月22日
きらきらガラスのかわいいもの作り

【スタンドグラス講座】



10月25日
窓辺を彩るウィンドウパネルづくり



11月15日
窓辺を彩るウィンドウパネルづくり



11月22日
窓辺を彩るウィンドウパネルづくり

(2) 施設利用

- ・ 一般利用の貸出では、団体登録・予約の受け付け、インターネット端末での予約管理を実施
- ・ 市民の施設見学や利用に関する問い合わせに適宜対応

令和4年度 体験工房利用内訳

月	公用等利用							一般利用			空き		利用人数		
	コマ数	準備	講座	文化財	資料館	比率	利用割合	コマ数	比率	利用割合	コマ数	比率	大人	子ども	合計
4月	2	0	0	2	0	4%	33%	4	8%	67%	46	88%	25	0	25
5月	4	0	2	0	2	8%	40%	6	12%	60%	42	81%	83	0	83
6月	12	0	7	2	3	23%	71%	5	10%	29%	35	67%	166	0	166
7月	7	0	6	1	0	13%	54%	6	11%	46%	41	76%	101	38	139
8月	7	0	1	0	6	13%	88%	1	2%	13%	44	85%	68	80	148
9月	11	0	9	0	2	21%	61%	7	13%	39%	34	65%	181	1	182
10月	12	0	11	1	0	23%	75%	4	8%	25%	36	69%	143	10	153
11月	25	0	20	3	2	48%	81%	6	12%	19%	21	40%	266	22	288
12月	8	0	6	1	1	17%	50%	8	17%	50%	32	67%	120	5	125
1月	4	0	2	0	2	9%	24%	13	28%	76%	29	63%	90	17	107
2月	10	0	8	0	2	21%	48%	11	23%	52%	27	56%	144	1	145
3月	10	0	4	5	1	19%	50%	10	19%	50%	34	63%	120	6	126
合計	112	0	76	15	21	18%	58%	81	13%	42%	421	69%	1507	180	1687

5. 施設利用・管理

(1) 資料館利用

①入館者数

令和4年度 入館者数

月	開館日数	個人		団体			体験工房				合計人数
		大人	子ども	団体数	大人	子ども	利用コマ数	利用率	大人	子ども	
4月	26	174	46	4	42	39	6	12%	25	0	326
5月	26	182	38	5	58	143	10	19%	83	0	504
6月	26	155	34	11	179	148	17	33%	166	0	682
7月	27	100	44	2	5	16	13	24%	101	38	304
8月	26	145	62	1	5	9	8	15%	68	80	369
9月	26	95	33	7	34	270	18	35%	181	1	614
10月	26	174	31	6	88	262	16	31%	143	10	708
11月	26	235	63	10	87	596	31	60%	266	22	1269
12月	24	117	27	1	5	38	16	33%	120	5	312
1月	23	125	45	0	0	0	17	37%	90	17	277
2月	24	172	94	3	17	73	21	44%	144	1	501
3月	27	199	65	3	29	0	20	37%	120	6	419
合計	307	1873	582	53	549	1594	193	31%	1507	180	6285

*開館（昭和59年）からの累積入館者数 343,184人（令和5年3月末現在）

(2) 資料館管理

①委託による実施

- ・管理棟の玄関・通用口・体験工房出入口自動ドアの保守点検
- ・管理棟空調設備の保守点検
- ・庭園樹木・芝生の管理
- ・鋳物工場・主屋の虫害防除処理（主屋床下・中二階天井竹部・屋根裏竹部、工場外側木部）
- ・東側隣接斜面及び南側道路隣接地の除草
- ・消防設備点検
- ・電気施設の保守点検
- ・機械警備及び巡回警備
- ・管理棟トイレの日常清掃及び管理棟の定期清掃
- ・監視員による日常業務として館内を監視し、見学者の事故などを防止するとともに、館内や庭園の散水・除草などの日常的な清掃を実施
- ・体験工房から排出する塵芥の排出・処理
- ・体験工房の窯等設備点検

②職員による実施

- ・敷地内の雑木の枝払いを実施
- ・資料館施設及び施設内の設備・展示ケース・展示資料の補修・清掃、庭園の保守・管理などを適宜実施
- ・その他、火の始末・施錠など資料館施設に関わる一般管理業務を実施

③ 修繕

- ・主屋襖張替
- ・管理棟前の水道管の補修・交換
- ・管理棟天井張替え、床シート張替え
- ・通用口アスファルト舗装修繕

6. 研究報告

(1) 枚方市東部の門松

はじめに

枚方市は大阪府の北東端にあたり、京都府と一部を奈良県に接している。市域の東部は生駒山系の丘陵地に里山や農地が広がり、伝統的な習俗が比較的残りやすい地域と言える。

この東部地域で、正月の神社に飾りつけられる正月の門松は、松を左右に立て、竹を横に渡す構造のものである。今日ではあまり見ない形態の門松であるが、この門松は、江戸時代後期の『守貞謾稿』に描かれる、古い形態のものである。本稿では、現在も地域住民の手によってつくられる、枚方市東部の門松について紹介する。また、尊延寺地域の住人が巖島神社境内の門松をつくる様子も紹介する。なお、東部の門松の写真は平成 24 年（2012）1 月のもの、尊延寺の門松づくりの写真は平成 27 年（2015）12 月 31 日のものである。

『守貞謾稿』の門松

江戸時代後期の京都・大坂・江戸の風俗が綴られた『守貞謾稿』には 4 種類の門松の絵が描かれている。

【写真 1】の右下に、左右一対あるべき門松の、向かって左側だけの姿であるが、松を立て、注連縄を架けた門松が描かれている。京坂（京都・大阪）の門松で、武家屋敷や、三井、大丸などの大店呉服店に見られるといい、松の根元に砂を盛って立て、その松に前垂注連を渡し



写真 1. 京坂の門松『守貞謾稿』
巻 26 国立国会図書館蔵



写真 2. 江戸の門松『守貞謾稿』
巻 26 国立国会図書館蔵

（枝葉を除いた竹稈を軸にした注連

縄だろうか）、中央に裏白、ゆずり葉、海老、橙、蜜柑、柚、串柿、昆布、榎、かち栗、池田炭、野老、ホンダワラなどを飾ると記されている。また【写真 1】の左上に描かれるのは、戸口の両柱に松を釘打ちしただけの門松で、戸上には注連縄が張ってある。大店ではない呉服店、また富豪であっても、このような簡素な門松を用いる事もあると記されている。

一方、【写真 2】の右の絵は、江戸の門松である。京坂と異なる点は、松に枝葉の茂った竹が添えて立てられ、また前垂注連の端からも竹の枝葉が飛び出している。門松のボリュームを竹で補っているように見受けられる。武家屋敷や呉服などの大店は専らこれを用いるとあるが、竹を添えない門松もあると記されている。松の根本は京坂のように砂を盛る姿ではなく、薪で囲んで固定、あるいは、松を中心に地面の三方に薪を打ち込み、縄を張って固定するものもあるが、家ごとで異なり一定ではないと記されている。また、豊かでない家では、京坂と同じく松を柱に釘打ちすることもあるという。また、【写真 2】の左上に描かれた門松のように、太い削ぎ竹（端

を斜めに削って尖らせた竹) に小さい松を添えたものもある。削ぎ竹を立てる場合は、注連縄は家の出入り口の上に打つ。削ぎ竹の門松は医家などに多いと記されている。

枚方市東部の門松

現在の日本で主流となっている門松は、『守貞謾稿』に江戸の門松として描かれる、削ぎ竹に松を添えた形を受け継いだものと思われるが、枚方市東部では、京坂や江戸の武家屋敷・大店に飾られた形態の門松が、神社に立てられている。ここでは、市東部の神社7社に立てられていた門松を紹介する(市域における位置は【図1】参照。図中の番号は本文中の神社の番号と符合)。巖島神社(尊延寺)の門松は、つくり方を含めて後ほど紹介する。門松につけられる、裏白や紙垂、橙などの飾りについては、写真撮影時に、飾りつけた時の状態が保てていないと思われるものもあったため、今回は、主に門松の構成を述べる。

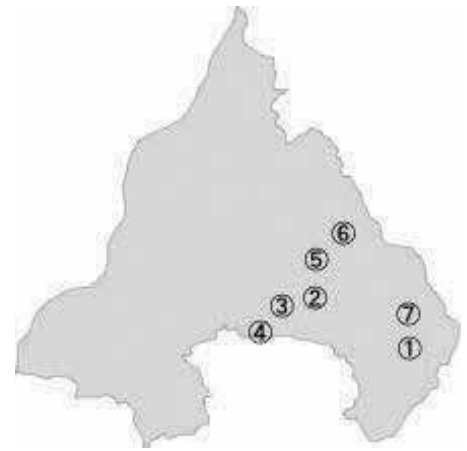


図1. 市東部の門松位置図

①三之宮神社(穂谷)【写真3】

大きな松に斜めに切った削ぎ竹3本と梅の枝を添えて立てられる。松の根元は割竹で囲い、中に笹や葉ボタンなどが植えられる。松は向かって左が黒松、右が赤松。

横に渡す竹は、先に枝葉を残した竹2本と、前垂注連をつけた竹稈1本。先に枝葉を残した竹は交互に組み、両端に枝葉が広がる。

場所は境内鳥居前。拝殿前にも松に削り竹と梅の枝を添えた、横に渡す竹を伴わない門松あり。

②春日神社末社(津田元町)【写真4】

松に枝葉のついた竹と梅の枝を添えて立てられる。これらは杭に固定、砂が盛られる。松は左が黒松、右が赤松。

横に渡す竹は、先に枝葉を残した竹2本。交互に組み、両端で枝葉が広がる。これに左縄の注連縄が付けられる。

場所は境内の末社前。境内鳥居前にも松に削り竹と梅の枝、横に渡す竹が竹稈を軸にした前垂注連の門松あり。



写真3. ①三之宮神社(穂谷)



写真4. ②春日神社末社(津田元町)

③春日神社（野村南町）【写真5】

松に枝葉のついた竹と梅の枝を添えて立てられる。これらは杭に固定、砂が盛られる。松の種類は不明。

横に渡す竹は、全体に枝葉を残したままの竹2本。交互に組み、全体的に枝葉が広がる。これに右繩の注連縄が付けられる。

場所は拝殿前。

④春日神社（春日元町）【写真6】

松に枝葉のついた竹と梅の枝を添えて立てられる。これらは石の鳥居に固定、砂が盛られる。松の種類は不明。

横に渡す竹は、全体に枝葉を残したままの竹2本。交互に組み、全体的に枝葉が広がる。これに右繩の注連縄が付けられる。

場所は境内鳥居。



写真5. ③春日神社（野村南町）



写真6. ④春日神社（春日元町）

⑤菅原神社（藤阪天神町）【写真7】

松に枝葉のついた竹と梅の枝を添えて立てられるが、竹と梅の枝は提灯を掲げる杵に固定、松は地植えされている。盛り砂は無し松は左が黒松、右は赤松。

横に渡す竹は、全体に枝葉を残したままの竹1本。竹の先は右向き、全体的に枝葉が広がる。左繩の注連縄が付けられる。

場所は拝殿前。

⑥菅原神社（長尾宮前）【写真8】

松に枝葉ついた竹と梅の枝を添えて立てられる。これらは別に立てた竹稈に固定、盛り砂は無し。松の種類は不明。

横に渡す竹は、竹稈に竹の枝葉を多数取り付けられる。注連縄は無く、橙や紙垂などの飾りは竹に付ける。

場所は拝殿前。



写真7. ⑤菅原神社（藤阪天神町）



写真8. ⑥菅原神社（長尾宮前）

尊延寺・巖島神社の門松

尊延寺は標高100～130メートル、集落の背面には生駒山地の延長部がせまる、山間の集落である。

平成27年（2015）12月31日に、同神社での門松の飾り付けを撮影する機会があったので、当時の写真を用いてその様子を紹介する。なお、当日は末社分を含め3基の門松をつくっていたが、横に渡す竹の有無や、飾り付けが多少異なる。ここでは、最も大きな拝殿前の門松について取り上げる。

巖島神社の門松づくりをするのは、神社の管理を担う9人の氏子である。12月の中旬に藁打ちを行い、門松にする松と梅の枝を近くの山に取りに行く。事前に大きさや枝ぶりが良いものがどこにあるか目星を付けておき、所有者の許可を得て切って帰る。

同月25、26日頃には、持ち帰った松と梅の枝を立て、根元に盛り砂をする。年によって松の大きさは多少異なるというが、平成27年の松は高さが3mほどであった。向かって左は黒松、右は赤松。黒松をオン（雄）、赤松をメン（雌）と呼ぶ。松には梅の枝を添え、根元には砂を盛り、紅白の葉牡丹を植える【写真9】。またこの日に、藁打ちした藁で注連縄をつくる。注連縄は門松や社殿に張るもので、左縄で間に7本・5本・3本の藁で前垂れを入れる。さらにこの日に裏白を山に取りに行き、裏白が乾かないよう、氏子の家の井戸に31日まで吊り下げておく。

12月31日の朝、巖島神社に集まり、午前9時頃から神社近隣の山に竹を切りに行く。また、ゆずり葉は竹を切りに行く時に手分けして近隣の山に取りに行く。



写真9. 飾り付け前の門松



写真10. 横に渡す竹の枝をまとめる



写真11. 横に渡す竹を門松に架ける

境内に持ち帰った竹は、枝葉の部分を根元から先にかけて、枝を時計回りに絞るようにまとめあげ【写真10】、最後はまとめた枝がもどり広がらないよう、先を紐で縛る。枝をまとめた竹を、立てた松に架ける。竹の根元を向かって左、先を右にし、人が下を通る時に頭を下げるくらいの高さに、松の木の股に架け、紐で固定する【写真11】。

門松に架けた竹に注連縄を付け、注連縄に裏白5枚、ゆずり葉6枚、橙3個、紙垂5枚を取り付けて【写真12】、完成する【写真13】。この橙は正月になれば、お参りに来た人が取っても良いのだという。

撮影した平成27年は、午前9時に竹を切り出し始め、2時間ほどで境内の3門の門松の飾り付けと、社殿に注連縄を張り終え、神社の正月を迎える準備を済ませていた。

正月が過ぎて役目を終えた門松は、小正月のトンドで燃やしていたが、現在ではトンドが行われなくなったので、1月10日過ぎに門松を下げるだけになったという。



写真12. 注連縄にダイダイなど付ける



写真13. 完成した門松

むすびにかえて

この他、杉の若宮八幡宮では、正月飾りは注連縄だけで、門松は確認できなかった。また、長尾峠町の菅原天満宮も注連縄だけで、門松は確認できなかった。

今回紹介した7つの門松は、立てた松に竹を横に渡す点は共通するが、立てた松に添える竹の有無、横に渡す竹の枝葉の使い方などの差異がみられる。一方で、隣接する地域の門松には似かよった点も認められ、それがどうした経緯によるものなのかわからないが、興味深い。今後、調査対象地域を広げ、さらに門松の形態を詳しく調査し、物質面からの比較とともに、地域ごとの門松に関わる伝承の調査も進める必要があるだろう。

(学芸員 武知邦博)

(2) 資料紹介 長谷川家文書「注文諸控」について

はじめに

長谷川亀右衛門家は屋号を「仏具屋亀右衛門」とし、京都市下京区六条若宮町に店を構え、江戸時代には青銅製の仏具を中心に蠟型鑄造を行っていた家である。明治以降は屋号を「長谷川光文堂」として営業を行っていた。平成13年(2001)秋に廃業後、同家の鑄造道具や製品、代々伝わった古文書などの資料について、一部を除いて平成22年に枚方市教育委員会が寄贈を受け、当館で保管している。なお、寄贈の経緯については、吉田晶子『京都長谷川亀右衛門家の蠟型鑄造 近代化以前の鑄物業の民俗技術と営業形態に関する研究』(平成19~23年度 科学研究費補助金(基盤研究(C)) 研究成果報告書、2012年)に詳しい。寄贈を受けた資料のうち、鑄物関係資料については、吉田晶子氏の協力のもと、すでに報告を行い展示にも活用している(「寄贈資料紹介『旧長谷川亀右衛門家鑄物用具と製品一式』」『枚方市文化財年報』33(2011年度分)、2012年)。その他の古文書や下絵・切型などの紙資料についても当館において調査を実施した。

当館所蔵の長谷川家文書の作成年代は、おおむね近世中期以降から戦後までである。その内容は製品製作のための記録や書状類などといった鑄造に関するもの、棚卸や大福帳など経営に関するもの、家の普請や講、信仰といった長谷川家に関するもの、地元の町に関するものなどに大別できる。特に鑄造に関するものについては、花器や茶釜などの切形、灯籠や香炉の下絵、風鐸や灯籠の寸法が記された図面、鑄造品の文様や文字の墨摺、小品製作のために題材を描いた絵など、その内容は多岐にわたる。

長谷川家の製品と記録

長谷川家の歴代が鑄造した製品については、吉田氏によって長谷川家の由緒書などからまとめられている(前掲吉田2012)。なお、由緒書については当館の所蔵ではなく、所在の確認ができていない。そのうち23代から25代の時代にあたる近世後期から明治初期の主な製品のうち、年代がわかるものは次の通りである。

天保11年(1840) 東寺大師宝前大台灯籠

嘉永年中(1848-54) 栗生光明寺本堂大五具足・脇三具足等

慶応2年(1866) 御仏具・御膳具調進(寺院名不明)

明治11年(1878)年 大阪天満天満宮西脇大台灯籠

ほかに、作成年代が不明の製品としては、23代 亀右衛門 易成(天明3年(1783)9月3日生)の時期には光格帝泉涌寺に御仏具調進、竹生嶋大香炉、伏見稻荷神社擬宝珠、柳谷揚谷寺諸金物一式・天水鉢、北野天満宮宝前大台灯籠、25代 亀右衛門 易知(文政7年(1824)3月生)の時期には北野天満宮御内陣台灯籠、揚谷寺大火燈、東寺大師誕生仏・塔婆・大花瓶等、高野山五大院塔婆、善光寺如意輪観音仏などが挙げられている。

長谷川家が日常的に販売していた製品や近世の寺社の金物類や灯籠・仏具など個々について詳細な記録は残されていない。ただし、注文などを記載した横帳が残されているため、そこから長谷川家がどのような注文を受けていたかを知るこ



写真1 「注文諸控」 小口(部分)

とができる。この文書は表紙を欠くものの、小口に「注文諸控 普請」と記さおり、鋳物製品の注文の記録と家の修繕関係の記録であることがわかる。また、「注文諸控」には天保15年(1844)から嘉永2年(1849)までの年紀がみられるため、近世後期に長谷川家が鋳造したものについて知る手がかりとなる。

この文書は「注文諸控」にあたる部分が墨付57丁と分量も多いため、ここでは一部を紹介するに留める。

先に記した長谷川家歴代の作品のうち「注文諸控」に記載がみられるものとして、23代亀右衛門易成の作とされる柳谷楊谷寺諸金物一式が挙げられる。楊谷寺の金物について本文書では、弘化2年(1845)「御堂前拝柱根巻」、弘化3年「宝珠」、弘化4年「ほうちゃく(宝鐸)」(写真2上)・「高欄金物」(写真2下)などが挙げられる。

長谷川家は、上記のような寺社関連の金物類以外に日用品も鋳造していたので、その注文についてみていきたい。写真3は辰年(天保15年

(1844)7月の注文控であるが、各行の右肩に発注者名があり、品名・個数が記される。1行目は鱗宗の名と大花瓶1対が記されているが、続く4件は注文主の名前ではなく家印が記されている。これらの人名・家印は本史料には頻出するため、長谷川家の主要な取引先だったのであろう。このように記載されるのは、火鉢や手あぶり、釜、置灯籠などの注文が大半である。



写真2 上：宝鐸、下：高欄金物



写真3 注文控

規格品ではない製品についても注文を受けることがあった。その場合、先にみたような簡略な書き方ではなく、製品の内容がわかるよう詳細な記載がなされている。例として午(弘化3年(1846))10月21日に神泉苑町若太(若狭屋太郎兵衛)から注文を受けた三具足について、記載方法を確認したい。年月日に続けて、注文主と代金が記され、それに続いて寸法が図入りで描かれている。これらの製品は部分ごとに大きさ異なるため、それぞれの仕様がわかるように細かく寸法が書かれていることが特徴である。この三具足を注文した若狭屋は、この箇所以外にも何度か仏具を注文した人物である。

おわりに

以上、仏具屋亀右衛門の鋳造製品の注文控書から、近世にはどのような製品を鋳造していたか、その一部を紹介した。本史料に描かれているような製品の図は長谷川家資料に多く含まれている。それらがどのようなものであるか確認する必要があるが、今後の課題としたい。

(学芸員 吉川邦子)

枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館 年報
令和5年(2023)9月1日
編集・発行 枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館
〒573-0155 枚方市藤阪天神町5番1号
TEL (050) 7105-8097 FAX (072) 858-4665